駒　越　地　区

カ　ル　テ

データについて

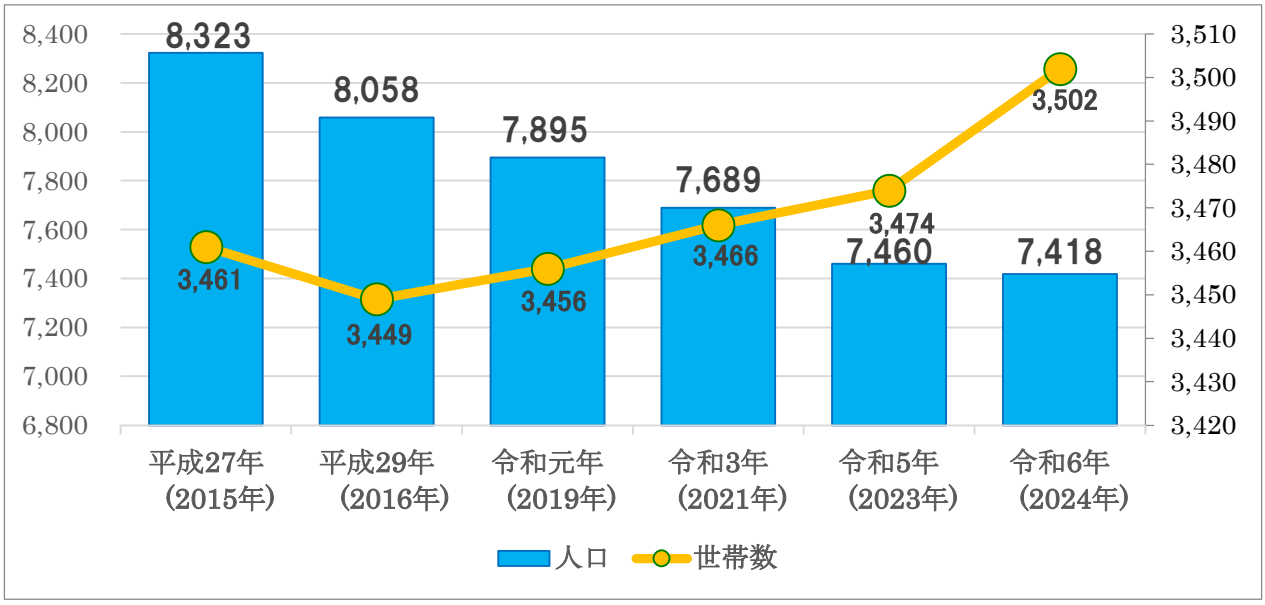
・カルテは住民基本台帳と自治会加入統計を利用しています。

・住民基本台帳は各年の 3 月 31 日の数値、自治会加入数は各年の 4 月 1 日の数値です。

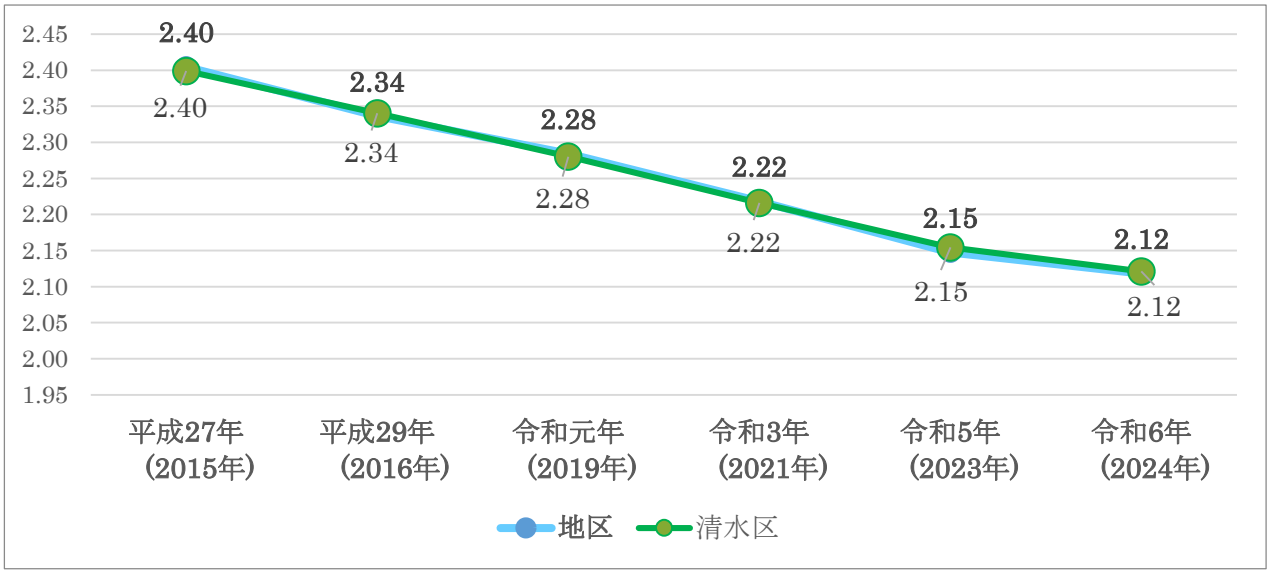
・町名は住民基本台帳を採用しているので、自治会名と一部異なる場合があります。

駒越地区の人口特性　令和６年３月　7,418 人　3,502 世帯　2.12 人/世帯

●人口・世帯数の推移

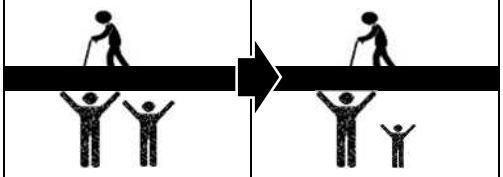


●一世帯当たりの人口推移

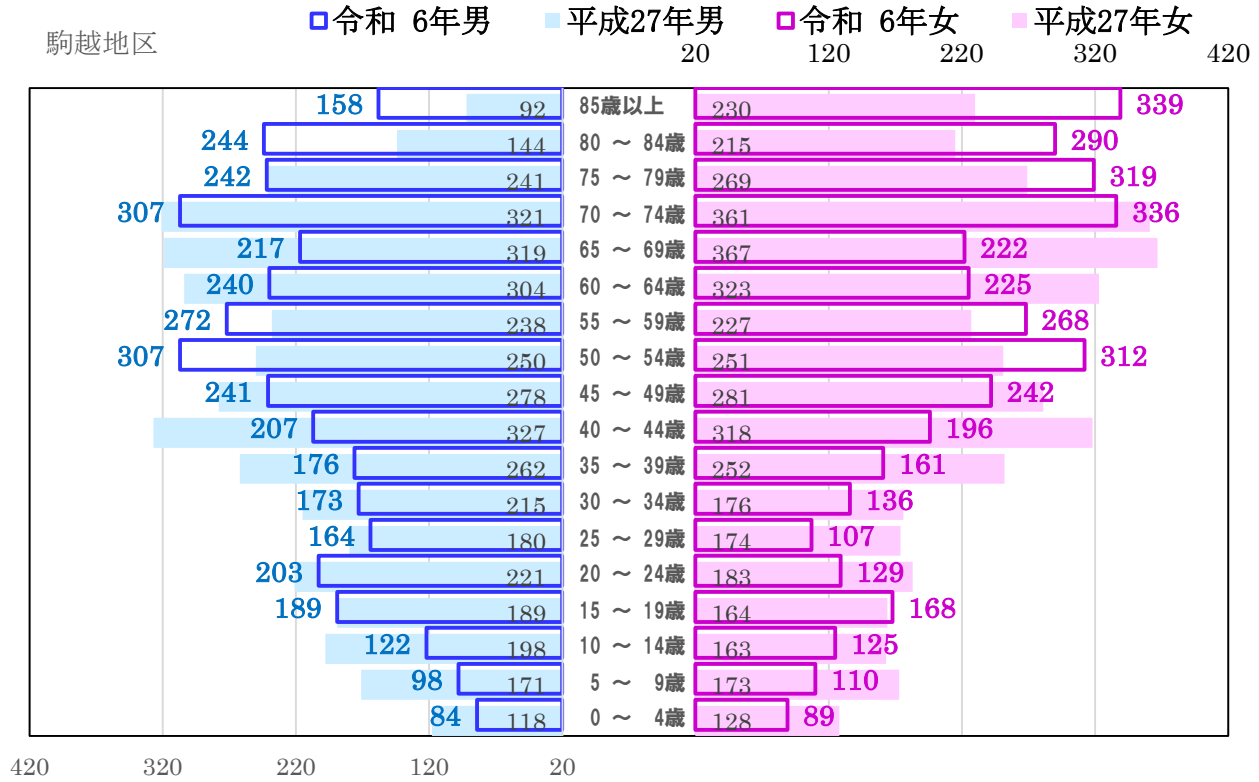


注）小数点３位を四捨五入したため、地区と清水区の値が同じになっています

●65 歳以上の高齢者を支える生産年齢層（15-64 歳）

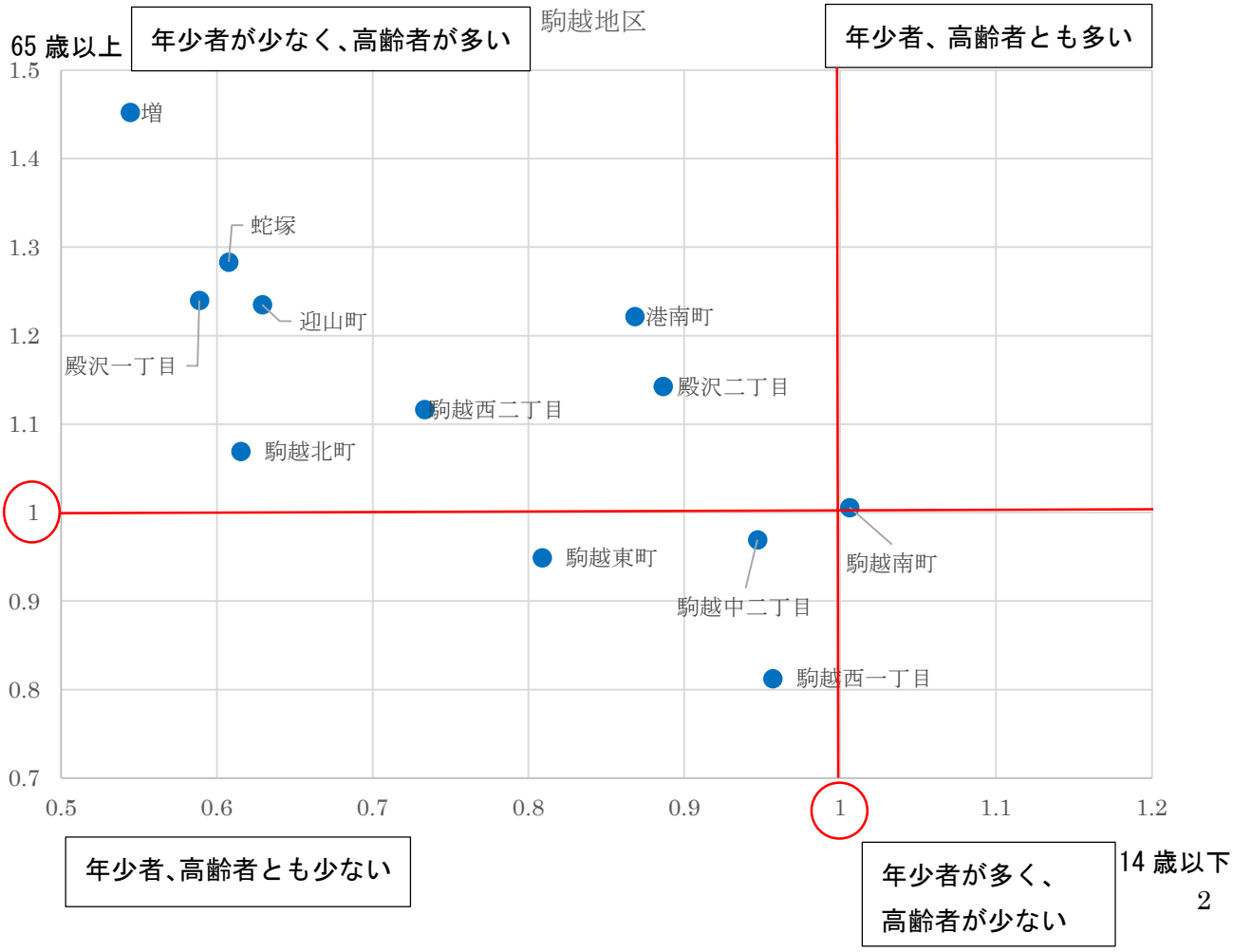
区　分	平成 27 年（2015 年）	令和 6 年（2024 年）
地　区	 1.88人	1.54人
静岡市	2.16 人	1.87 人
清水区	1.98 人	1.70 人

●人口ピラミッド【平成 27 年（2015 年）と令和 6 年（2024 年）の 5 歳階級別男女別構成】



●町別の 14 歳以下と 65 歳以上の割合分布（清水区の平均値を 1 とした場合）

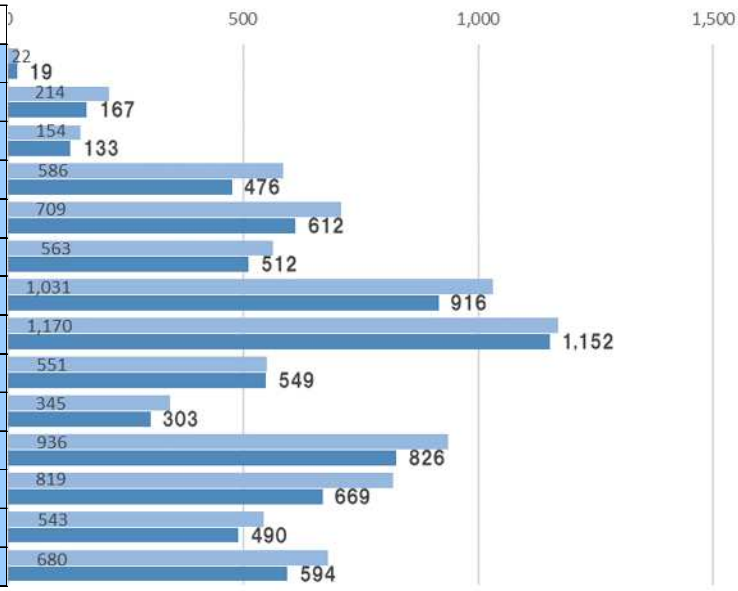
※年少者（14 歳以下）高齢者（65 歳以上）



●町別の伸び率と人口推移 【平成27年（2015年）と令和6年（2024年）の比較】

人口推移グラフ（上段平成27年　下段令和6年）

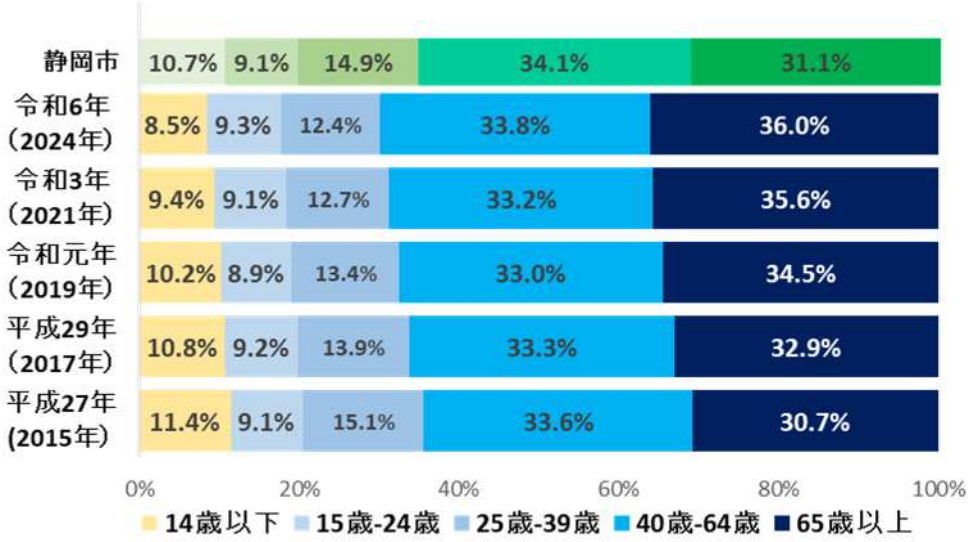
町名	伸び率
駒越	-13.6%
増	-22.0%
蛇塚	-13.6%
駒越北町	-18.8%
駒越東町	-13.7%
駒越南町	-9.1%
駒越中一丁目	-11.2%
駒越中二丁目	-1.5%
駒越西一丁目	-0.4%
駒越西二丁目	-12.2%
港南町	-11.8%
殿沢一丁目	-18.3%
殿沢二丁目	-9.8%
迎山町	-12.6%



		人　　口	
		平成 27 年（2015 年）	令和 6 年（2024 年）
駒越地区	**−10.9%**	**8,323**	**7,418**
静岡市	−5.3%	713,564	675,610

●町別人口区分別割合

・年齢５区分別人口割合の推移



※15-24 歳は高校から社会人（大学修士課程含む）　25-39 歳は社会人（大学博士課程含む）

・令和６年人口３区分別：

市の割合より

青字　14 歳以下の割合が低い場合

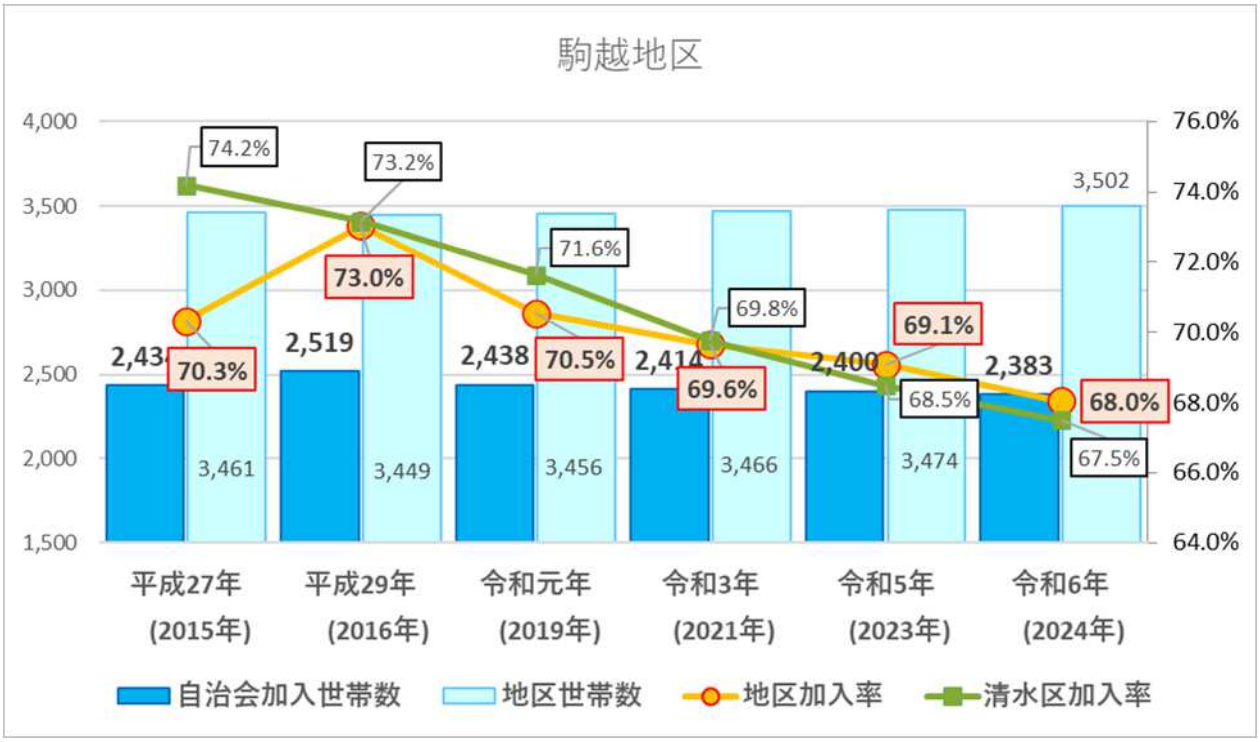
赤字　65 歳以上、75 歳以上の割合が高い場合

町 名	令和6年階級別割合		
	14歳以下	65歳以上	そのうち75歳以上
駒越	0.0%	68.4%	31.6%
墻	5.4%	48.5%	23.4%
蛇塚	6.0%	42.9%	25.6%
駒越北町	6.1%	35.7%	21.2%
駒越東町	8.0%	31.7%	16.7%
駒越南町	10.0%	33.6%	18.9%
駒越中一丁目	12.0%	33.4%	16.8%
駒越中二丁目	9.4%	32.4%	20.0%
駒越西一丁目	9.5%	27.1%	15.7%
駒越西二丁目	7.3%	37.3%	24.4%
港南町	8.6%	40.8%	26.8%
殿沢一丁目	5.8%	41.4%	24.4%
殿沢二丁目	8.8%	38.2%	24.9%
迎山町	6.2%	41.2%	27.4%
駒越地区	8.5%	36.0%	21.5%
清水区	9.8%	33.0%	19.3%
静岡市	10.7%	31.1%	18.0%

●自治会加入状況

令和６年

加入率	地　区	68.0%	加入世帯数	2,383 世帯
	清水区	67.5%	住民基本台帳世帯数	3,502 世帯



駒越地区コメント

・人口は減少傾向を示し、世帯数は増加傾向にあります。世帯人数が減少していることから、単身世帯や小家族化が進んでいるようです。

・人口減少地区は町内全てに見られ、少子高齢化となっています。

・令和 6 年の 65 歳以上を1人支える生産年齢（15 歳から 64 歳）が市の 1.9 人より少ない 1.5 人で減少傾向にあり、若い世代が地区や自治会活動等への負担が増えることが見込まれます。

・さらに、自治会の加入率は区の値 68%とほぼ同じですが、年々減少傾向が見られます。

駒　越　地　区

地名のゆかり

大正時代の増のいちご園

ここには御穂（三保）明神が駒に乗って湖を渡り、この辺りに着いたので「駒越」の地名ができたという伝承があります。また、三保で放牧されていた三保明神の神馬が柵を越えて来たことから生まれた地名とも、駒越の「駒」は高麗(こま)であり、朝鮮半島の高麗（百済）人が海を越えて来てここを開いたことから、駒越と呼ばれるようになったとも言われています。

霊亀２年（716）、大和朝廷は、駿河、甲斐など７国に住んでいた高麗人を集め、武蔵国に入植させて高麗郡を作りましたが、この中に駒越に住み着いた人も含まれていたことでしょう。

ここの増地区は、平安末期に落人となって冷(びや)川上流へ逃れて来た木曽義仲の家臣増村左ヱ門の子孫が、鎌倉時代の承久年間（1220年前後）、今の増地区に住んだとき、祖先の名をとって名付けたということです。このときの増村はわずか７戸だったと記録されているほど昔の駒越一帯は大変静かな所でした。しかし、久能街道には久能寺へ参拝する善男善女の姿が、平安時代以後絶えなかったことでしょう。

万　象　寺

臨済宗妙心寺派に属する万象寺は、嘉元元年（1303）象外大和尚が鎌倉より観音菩薩の尊像を背負いこの地に来て、用富川のほとり（現在の駒越中２丁目）に堂宇を構え開基し、用富山万象寺として開山しました。

その後、室町時代、応永13年（1406）震災で諸堂及び記録など焼失してしまったが、寛文２年(1662)泰禅和尚が現在の地に伽藍を再興し、富春山と改称しています。

現在の本堂は、昭和35年２月に新築したもので、本尊として「白衣観音」が祀られています。

この地は富士の眺望が絶景のため、詩人・墨客などの来遊が多く、山岡鉄舟の「望嶽」の額が保存されています。

忠　霊　塔

忠霊塔

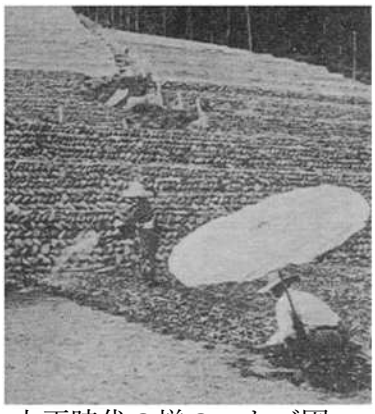
三保半島や清水港を眼下に見おろし、遠く伊豆連山と霊峰富士を望む駒越の向山に、西南の役から第二次大戦までの戦没者と戦難者4356柱の霊を祭る忠霊塔があります。

デザインは、神社の千木(ちぎ)（神社のむねの上に、左右から交さした形で取り付けた木）を型取ったユニークなもので、美術建築で名高い吉田五十八氏（東京芸大名誉教授）が、小高い丘を利用して設計したものです。 また、組み合わされた塔の真下には、「清水」という文字を図案化した池と石碑があります。

祖国のために戦死した人々の霊を慰めるために忠霊塔を建てようという計画は、戦時中からありましたが、用地や資金の面で難行しさらに終戦によって一時中断していました。しかし、戦後の世情が落ち着いた昭和32年、遺族会や自治会が中心となって設立準備会が結成され、翌年、市が建設にかかりました。

当時、向山一帯は寂しい所でしたが、今では住宅街となって、忠霊塔の広場や丘に憩う人も増えています。

石垣いちご


大正時代の増のいちご園

明治35年、増の萩原清作さんが、「いちごは一粒一銭五厘になる有利な作物だ」という雑誌の記事を見て、いちごを栽培したのが“久能の石垣いちご”の始まりだと言われています。

それ以後、いちご栽培は、たちまち駒越海岸一帯に広がり、有度山の南ろくは、山の頂まで赤いいちごの実が錦織りなすようになりました。

大正初期には、早くも栽培農家は120戸を越え、いちごを江尻駅まで天びん棒で担いで、東京へも出荷したそうです。

いっぽう、栽培方法も次第に改良されて、玉石の代わりにコンクリート板が使われ、昭和27年から富士山ろくの高地に苗を移植するようになりました。また、最近では、いちご畑のほとんどがビニールハウスになっています。

こうした苦労が実って、全国屈指の生産地として有名になり、冬から春にかけていちご狩りの観光客で賑わっています。

いちご音頭

作詞：若杉雄三郎　　作曲：吉田矢健治　　唄：春日八郎

1、いちごナァ
いちご名所と　聞いてはいたが
ならぶ石垣　紅屏風
富士の雪さへ　いちごころ

波の音なら　ザブランラン
いちごつむ手は　チャラチャットセ
ヨカラズ　ヨカラズ　ミガマシイナ

2、いちごナァ
わたしゃ駿河の　石垣育ち
一度結べば　はなりやせぬ
花はひといろ　いちごころ

3、4、5番に続く・・・

「よね蔵のお舎利さん 」

昔、斉藤善左衛門は地蔵菩薩を厚く信仰していて、萬象寺の山門に地蔵堂を建てました。そして、村内に疫病が流行すると、村人の安全と疫病退散の祈祷を行っていました。

ある朝早く「賤ノ下人」と思われるボロ衣をまとった童子がその門前に立っていました。出入衆は咎め、追い払おうとしますが、一向に去ろうとはしません。そばに寄れば何とも言えぬ 悪臭に、とても近寄れませんでした。困った出入衆は善左衛門さんを呼びました。

出入衆の話を聞き終えた善左衛門さんは、「賤ノ童だからと言って、畜生同全に追っ払っちゃいけない」そう言うと、童子を湯に入れ、新しい着物を用意し、食べ物を与えました。

善左衛門にいろいろと尋ねられた童子は、なにも答えることができず、ただ、月の24日に生まれたことだけを告げました。この日が地蔵様の縁日だったので、善左衛門はこの子「米蔵」と名付け養子にし、手習いや行儀作法を教え大事に育てました。

米蔵が８歳になったとき、村で流行した疫病にかかり、不治の床についてしまいました。やがて、死を目の前にした米蔵は、般若心経を口ずさみ、息を引き取りました。

米蔵のはかない命を悲しむとともに、米蔵は村人に代って自ら苦しみを受け、人々の延命を助けたものであろう。もしそうであるならば、米蔵は地蔵様の化身に違いないと信じるようになりました。

そこで善左衛門は、身分の高い人と同じように米蔵の遺体を火葬し、頭から「舎利」を取り出し、「御舎利様」として朝夕に供養を続けました。そして、地蔵堂を改築し延命地蔵としました。

米蔵のお舎利さん
（斉藤家）